

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472800909		
法人名	中央ケアサービス株式会社		
事業所名	なでしこ大紀		
所在地	三重県度会郡大紀町崎181-4		
自己評価作成日	平成28年2月15日	評価結果市町提出日	平成28年4月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2472800909-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 3 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人は、口か、足から衰え始める」 「ケアに積極性を」 往診医から、この2点のアドバイスをいただいてから、施設の意識が変わり始めています。 去年よりはっきり変わった点として、運動や散歩に取り組む機会が、飛躍的に増えたことが挙げられます。 今後は、嚥下機能の維持のための運動を、より積極的に行うことを目標にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の傍には綺麗な川が流れ、緑豊かな山々に囲まれた自然豊かな環境の中にある。「笑顔とやさしい声の響きこそ最大の良薬」等を理念とし、職員の笑顔と優しいケアのもと、利用者達はそれぞれの思いを大切にされ、ゆったりとした生活を楽しんでいる。代表者や管理者・職員の地域福祉と高齢者介護への熱い思いが印象的で、常に質の高いケアを目指して、工夫・取り組みがされている。又、地域との繋がりを大切にしたり取り組みも積極的に行われ、地域の文化展やひな祭り等のイベントへの参加を始め、事業所へは、詩吟の会、バイオリンや舞踊の愛好家等多くの地域の人たちが慰問に訪れ、幅広く交流が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい場所に提示し、毎日唱和している。会議事項書の下部に毎回印刷している。サービス提供の原点として大切にしている。	毎日の朝礼の際に唱和等をしてしながら、理念の共有を図り、常に理念に立ち返りながら、ケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントへの参加、移動販売を依頼しての買い物など、継続して実施している。定期的に慰問して下さる個人・グループもさらに増え、地元の文化祭への出品と見学も恒例となった。	地域のひな祭りや文化展等へ参加し、事業所の夏祭りには、多くの地域の人たちが参加している。月2回程、詩吟の会・舞踊の愛好家等による慰問があり、隣接の保育園児も訪れる。又、地元中学校への講師の派遣等、多彩な地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議出席者への周知、学生の職場体験の積極的受入れなど、努力している。地域の大紀中、大宮中から依頼を受け、認知症についての授業を行う機会が年に一度ある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で開催し、意見交換を行っている。施設や入居者の状況報告も行っているが地域の中で施設をどう生かすかが、主なテーマになっており、前年同様、ケアへの具体的な要求はない状態である。	運営推進会議は、役場担当者・地域包括職員・民生委員・自治会の代表・地域のボランティア・家族の代表で構成し、2か月毎に開催している。事業所の現況報告・情報交換・意見交換を行い、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議に参加いただき、現状報告し、意見を伺っている。今後の地域への周知のために、キャラバンメイト養成講座への参加を依頼してもらえるレベルの協力関係ができている。	町担当者が運営推進会議に参加しており、町担当者とは、代表者を中心に日常的に情報交換を行いながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の危険性を考慮に入れながら、指導に沿って取り組んでいる。日中は施錠しないことなど、数年前は抵抗のあったことが、当然そうあるべきものとして実施できている。	玄関の施錠はせず、常に拘束のないケアを意識し、職員間で気づく点があれば、その都度話し合っている。又、「身体拘束をしないケアの研修会」へ職員が参加する等、拘束をしないケアの理解の向上に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習等に参加し、会議の場で周知徹底している。役職者と職員それぞれが相互に注意しあえる環境である。職員同士の関係でも、虐待につながる態度や発言を無くすよう注意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習等に参加し、会議の場で周知徹底している。利用者やご家族には、サービス利用開始前の段階で、しっかりと話し合いの場を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明のため、十分な時間を取っている。説明不足によるトラブルやクレームも無く、問題ないものと判断している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議での相談、プラン作成時の返信記入欄、近況報告と要望の確認、家族代表の会議参加と苦情窓口係の設置など、機会を作っている。	運営推進会議に家族の代表が参加している。特に面会時を大切にし、意見・要望などを十分聴くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、職員会議、連絡ノート、要望票、年一回の感想文、自己評価への全員参加などの機会を設けている。書類関係を中心に、早めのフットワークで意見を反映することができている。	代表者も参加する全体会議を毎月開催し、運営について意見交換・話し合いを行っている。代表者は、常にケア現場に入り、日常的に職員とのコミュニケーションを取る様になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤日や就業時間帯の要望には最大限に対応している。個人的な事柄や人間関係の相談についても、個別に時間を取り、対応と配慮を行っている。他の事業所を参考に、考査のやり方の変更を検討中。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	セミナーや研修会の周知と積極的な参加を呼び掛けており、会議では内容の報告や、看護師によるミニ勉強会の時間を必ず設けている。他の事業所を参考に、考査のやり方の変更を検討中。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役職者がグループホーム協議会に役員として参加しており、セミナー日程を会議で必ず周知し、参加後の会議では報告と取り入れの検討を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族による見学を積極的にお勧めしている。相談と説明のための話し合いに十分な時間を取っていただけるようお願いし、実際に取れている。施設理念として、笑顔と声の響きを重視し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族による見学を積極的にお勧めしている。相談と説明のための話し合いに十分な時間を取っていただけるようお願いし、事実、取れている。初期協力が重要とお願いし、手助けしていただけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、施設CM、担当者らを含めた、本人を中心としたグループで話し合い、偏らない判断ができています。できるだけ時間を取りたい部分だが、早期の対応を求められる場合が多く、苦慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員それぞれが、さまざまなアプローチを実施している。入居者それぞれに役割があるよう配慮し、「ありがとう」との感謝の声かけのできる支援を、継続してできている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	主に初期の協力依頼、毎月のお知らせ、担当者からの手紙の送付、イベントへのお誘い、面会時の報告と写真撮影など、「家族の絆を再構築するお手伝い」との思いで、努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの病院や歯科医の利用、墓参り、お見舞い、面会時の声かけと写真撮影、地域イベントへの参加など、出来る限り努力している。	「ぶり祭り」等地元のイベントへの参加や墓参り、行きつけの美容院への支援を行っている。来訪する地域の人達も多く、馴染みの関係の継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を考慮に入れた席順や組み合わせの配慮などができている。この半年で入れ替わりが多く、今まさに見極めと関係性の構築の最中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退去時は寄せ書きと千羽鶴を贈り、可能な限り見舞って様子を伺い、会議で報告し合うといった、支援態勢のための努力を継続して行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理に起こさない、入浴日や時間帯の変更対応、受診病院の希望受け入れなど、努力している。特に入居後すぐの時期は、満足度を上げることを意識し、時間をかけ細かい要望にできる限り応えている。	日常のケアの中で、一人になる時間を大切にし、希望・意向の把握に努めている。そうした意向などは、気づきノートに記載し、職員間で共有するようにしている。	より質の高いサービスを目指していくため、本人の希望・意向を深く把握していく必要があり、そのためアセスメント様式の工夫等、思いや意向の把握により一層の取り組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	記録を取り寄せ、周知している。特に注意すべき点は連絡簿に記載する。施設での様子との差異についても、報告と話し合いを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	書類への記録と確認、朝夕の申し送り、連絡簿などを活用しており、全職員が漏れなく現状の把握ができています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録と診察結果を基に、変化に応じた会議や話し合いの開催、家族への連絡と相談など、きちんと手順を踏むことで、現状に即したプラン作成ができています。	本人・家族との話し合いを行い、職員の意見を聴きながら介護計画を作成している。3月毎の見直しと随時の見直しを行い、現状に即したプランを作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	必要な記録はしっかりとつけることができている。受往診結果など、情報共有のための専用ファイルも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	送迎や受診希望、金融機関への同行など、実行可能な要望には全て対応している。夜間は寄り添いたいとのご家族の希望を尊重し、泊まり込みにも応じている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	詩吟の教室を慰問の先生にお願いしたり、地域中学での認知症の授業で、中学生にできる支援を説明、依頼するなどしている。近隣の協力があり、施設を抜け出して歩く入居者に声を掛け、連絡してくれることも。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望通りに受診できるよう、家族に協力していただきながら、全ての要望に応じている。往診はもちろん、突発時の連絡に休日対応してくださるなど、往診医には大変な配慮をいただいている。	本人・家族の意向に添って、かかりつけ医への受診支援を行っている。また、往診や専門医への受診支援も行い、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、休日でも連携の取れる態勢を取ってもらっている。さらに、全員が記録や報告を確認して職務についており、連絡簿などの活用で、緊密な相談と連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のサマリーでの情報共有と、疑問を放置せず相手に確認するといった基本部分は、しっかりとできている。地域医療機関との連携を図る集まりにも役職者が参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医からの予測を受け、本人と家族の希望に沿ったケアを実施すべく、時間を掛け、容態の変化ごとに、繰り返し意向の確認を取っている。	旧来から看取り看護を行ってきたが、作成していなかった重度化や終末期に向けた方針、マニュアルを本年度に整備した。本人・家族と十分話し合いを行ないながら、かかりつけ医と連携し、本人・家族の意向に添った終末期における支援を行っている。事業所で看取りを行う利用者が多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	円滑な対応のためのマニュアルを作成。さらに不定期に訓練実施。個々のケースに対応するため、かかりつけ医への質問ができるファイルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練、協力体制、柔軟対応それぞれに、過去のレベルが維持できている。訓練での消防署員からの助言に従い、マニュアルを再作成しており、スムーズな対応ができるよう準備している。	年2回、消防署の指導を受けながら災害訓練を行っており、災害時に駆けつけてくれる地域の人も確保されている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	顔馴染みが多くおり、親しさと尊重とのバランスに苦慮している。笑顔と優しい声の響きを大切に、人生の先輩としての尊敬の念を持つようにしている。特に言葉遣いを重視し、職員それぞれで工夫している。	特に「優しい言葉使い」を大切に、誇りやプライバシーを損ねないケアに心掛けている。職員相互で気が付くことがあれば、その都度、話し合い、改善するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全職員が、家庭的な雰囲気づくりを意識し、実践できている。特に現在、一年以内に入居された方が多くいるため、要望を素早く察知し、迅速に応じることで、満足度を上げる努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床就寝時間、日中のリビングへの移動、入浴時間や順番の調整、余暇活動参加など、他入居者との調整が必要なものについてもできる限り聞き入れるなど、本人の意向を最優先に支援することができている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、髭剃りなどのチェックはもちろん、衣類は複数選択してもらえるよう配慮。化粧を楽しめる機会も設けている。散髪、毛染めは、資格のある職員が、本人の意向を伺いながら対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の過去のスキルを活かすため、洗い物等をお任せしていたが、衛生上の問題と他入居者からの苦情あり、以降はテーブル拭き、お盆拭きなどに限定した。席順や内容の要望などには全て対応済。	特に地元産の新鮮な魚や野菜等を生かし、調理するようにしている。又、食材を利用者にも見てもらい、調理の音や匂いも感じてもらいながら、食事が楽しみなものとなるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を基に、病状、体調、習慣、現状に沿った支援を行っている。往診医は、食事の不満から関係性を損なうことを問題視しており、食事の制限は控えて、心がける程度にして、薬で調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り自立を促し、出来ない部分のみ支援することができている。歯科医受診の依頼も、全て対応している。昨年は、往診もお願いし、複数回実施した。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の記録を基に、早めに声かけをして失敗を減らす、失敗しても責任を感じさせない対応ができています。PWC設置、撤去、オムツやパットの使用の判断は、本人を中心にした個別支援ができています。	排泄記録をもとに、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	病状に応じて、水分補給、野菜を多めの献立の工夫など継続して行っている。5日排便無しを目安に、服薬を検討する。去年に比べて、散歩などの運動、体操に意識が高まり、積極的に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人との事前相談の上で曜日を定める。さらに延期や拒否、シャワーのみの要望、順番への要望、入浴剤の使用などに、柔軟に対応している。	入浴日は、本人と話し合っ決めて、週2回は入浴するようにしている。機械浴の設備も設置し、利用者に合わせた支援をしている。又、足湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の掃除、整頓、空気入れ替え、汚れたシーツの随時交換、個々の好みの把握、見守り、眠れない方への飲み物や軽食の提供、おしゃべり相手といった、基本的かつ柔軟な支援ができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	閲覧できる服薬一覧の作成、変化の観察、医師への相談、薬の変更の周知徹底、粉末への変更依頼など、確実に行き届いた服薬支援ができています。拒否のある場合も医師に確認し、柔軟対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に状況を把握し、仕事の手伝いや、散歩、外出、絵画、書、足湯、器具運動、畑作業、カラオケなどの日常支援を実施。運動意識も高まり、慰問者も増えており、去年より充実した。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外泊、外食、買物、墓参、ドライブ、イベント参加など、支援、努力している。玄関前のベンチも日光浴に活用している。運動への意識が高まり、散歩する機会が去年より大幅に増えた。	日常的な散歩や買物等の支援、又、四季折々の花見や地域のイベントへの参加、ドライブ等の支援を行っている。特に運動への取り組みを強める中で、散歩の機会が増えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの無いよう個別支援ができています。所持されていない方がほとんど。少額を所持されている方から、お礼として金額の手渡しがあるが、全て記録し、ご家族にお返ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を気軽に職員に頼んでいただける環境を維持できている。電話も、事前に家族の同意があれば気軽に貸している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、空気の入れ替え、花や観葉植物の飾りつけ、入居者の作品展示など、継続して実施できている。音、光、温度等は、状況に合わせて調整している。時折笑い声の響く、落ち着いた空間を維持できていると判断している。	居間(食堂)は、広くゆったりとしている。明るく、日当たりも良く、清潔感があり、ソファの空間も広く、ゆったりと落ち着いて過ごせる空間となっている。又、花や入居者の作品等も展示され、親しみを感じさせ、和ませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人が居て、にぎやかなのがテレビ前、ゆったり新聞を読めるのがテーブル、日当たりのよいのがソファ、といった場所ごとの特徴を入居者が理解しており、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族との相談の上で、馴染みの物を持ち込み、家族の写真を飾るなどの工夫ができています。身体レベルの低下に合わせて、その都度ベッドや備品を揃えるといった対応も、迅速に実施している。	各居室には、テレビや家族写真等が飾られ、位牌を置いている部屋もある。窓のカーテンは、本人の好みの色のものが掛けられている。また、居室の入り口には、郵便ポストも掛けられ、家庭らしさの工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事故のないよう、ベッドやマット、布団の選択や利用しやすさへの配慮、ポータブルトイレの設置と撤去、レクへの声かけなど、知恵を出し、可能な限りの配慮をしている。		